

ある日、藤樹先生（与右衛門）が
用事でとなり村からの帰り道、たく
さんの米俵を積んだ馬車が田んぼの
中にはまってしまい、馬方が困って
いるところに通りかかった。多くの
人ががやがや言いながら見ているだ
けで、誰ひとり助けようとする人が
いない。先生はこの様子を見て、す
ぐに田んぼの中に入り着物の汚れも
気にせず助けようとされたところ、
今まで見ていた人たちも一斉に力を
合わせて手助けしたので、またたく
間に引き上げることができた。

は
母と子が 眠るお墓の
玉林寺



上小川の玉林寺門前の墓所に、藤
樹先生、先生のお母さん、三男常省
先生が静かに眠っておられる。この
墓所は上小川の人々の手でいつも美
しく守られている。

に
にこにここと いつも変わらぬ
藤樹さん



藤樹先生は、いつもおだやかな態
度で人に接し、何も言われなくても
その場におられるだけで和やかな雰
囲気になった。

ほ
方々から 慕い訪ねる
藤のもと



藤樹先生のすぐれた学問や徳行の
教えを慕い求めて来る人が、昔も今
も変わらず多い。近年は、毎日のよ

うに全国各地から絶えず人が訪れて
いる。

へ
兵法も 学問とともに
よく学び



江戸時代初期の武芸や武道を大切
にした時代にあつて、藤樹先生は、
文武は両方とも同じように大事だと
考え、学問の大切さを身をもって示
された。

と
遠く居て 母のあかぎれ
涙する



大洲での少年時代に、遠くはなれ
た故郷小川村でひとり暮らしの母の
身を心配し、あかぎれこう薬を買い
求めて、冬の雪の中を、はるばると
母のもとに届けられたという話は、
明治時代の村井弦斎作の有名な物語
である。

ち
父の愛 心に秘めて
学始め



武士の跡を継がなかった父に代わ
り、幼い与右衛門は祖父とともに米
子へ行かれた。米子では、父の愛と
期待を胸に秘め、学問を始められた。

藤樹かるた制作委員会委員

- 足立清勝・飯田典子・石黒紀代子・
- 北川暢子・清川貞治・高谷美智子・
- 山本義雄

(五十音順)

(次号に続きます)